

説 教

聖日礼拝

北浜チャーチ

黒田 禎一郎

2021年4月18日（日）

主 題：「善を行いつつ、ゆだねなさい」

—喜びの人生—

テキスト：第1 ペテロの手紙4章12-19節

はじめに

- ・ イースターがあり、私たちは第1 ペテロの手紙からしばらく離れていました。
今日から再び、第1 ペテロの書簡へ戻りたいと思います。
 - ・ そこではじめに、少し復習をしましょう。この書簡はエルサレムから、
 - ① 各地へ離散したユダヤ人クリスチャンに宛てて書かれた書簡です。
 - ② 彼らの多数は、生活と信仰の戦いの中に置かれていました。
 - ③ ペテロは彼らを励まし、勇気づけるためにこの手紙を書きました。
 - ・ 前回学んだところでしたが、ペテロは4章11節にはこのように書きました。
すべてにおいて、イエス・キリストを通して神があがめられるためです。この方に栄光と力が世々限りなくありますように。アーメン。I ペテ 4:11
- これはイエス・キリストを讃える言葉「頌栄」です。ここで手紙は一旦、書き終えたかのように思いますね。しかし彼は、12節以降で手紙を書き続けました。内容は前と同じように、兄弟姉妹たちを励ます言葉であります。ペテロには、それほど同胞たちを何とかして支えなければ、という思いが強かったのでしょう。
- ・ そこで今日は4章の残りの部分から、一緒に学んでいきたいと思います。

2 点

大切なポイント**1. 苦しみにあっても、喜べる理由**

- ・ まず、キリスト者の生きる姿勢を教えています。

4:12 愛する者たち。あなたがたを試みるためにあなたがたの間で燃えさかる試練を、何か思いがけないことが起こったかのように、不審に思ってははいけません。

4:13 むしろ、キリストの苦難にあずかればあずかるほど、いっそう喜びなさい。キリストの栄光が現れるときにも、歓喜にあふれて喜ぶためです。

- ・ ここでペテロは主に従っているのに、どうして苦しまなければならないのか、と思わないで、喜びなさいと勧めました。苦しみから救われるために、クリスチャンになったのに、また苦しい思いをするなんてと思わないで、喜びなさい。と言いました。しかしここで、少しお考えください。
- ・ 苦しみがあっても、喜びがある信仰は本物ではないでしょうか。
皆さん。ここにキリストを信じる信仰の中心（真髄）があります。では苦難にあって、どうして喜べるのでしょうか？ あなたはいかがでしょうか？

・聖書では、キリスト者の姿勢について二つの立場があると述べています。

① 一つは、神の命令を守り、神に従うならば、必ず神の祝福と恵みが与えられるという立場。 [詩篇 1 篇参照](#)

② 正しい者には悩み、苦しみが多いという立場。 [ヨブ記参照](#)

・現実には、どうでしょうか。後者②の方が多のではないのでしょうか。

そう考えますと、この第1ペテロの手紙は初めから、この苦しみの中にある聖徒たちに向けて語ってきた理由が分かります。そして、頌栄で手紙が終わったかのようにでしたが、再び苦しみについて語り始めています。それはペテロの心中を見せてくれる気がします。

・では、もう少し「苦しみ」について考えてみましょう。

一般的に、私たちの苦しみには大別して、3つあるのではないのでしょうか。

① 悪いことをしたために受ける罰としての苦しみ

③ 正しいことをしたのに、妬みや憎しみを受けての苦しみ

④ 病気、思わぬ事故や不幸にあって受ける苦しみ

・私たちの人生では、このように様々な苦しみがありますね。しかし、苦しみにあっても喜べるのは、苦しみより勝るものがあるからではありませんか。その最大のお手本はイエス・キリストです。ペテロはここでそのことを教えています。

・では、苦難から何を教えられるのでしょうか。

1) 苦しみの中で信仰が練られる (第1理由)

・ペテロは苦しみに会うとき、喜びなさいと言いました。喜べない状態で、どうして喜ぶことができるのでしょうか。その理由の一つは次のみことばです。

4:12 愛する者たち。あなたがたを試みるためにあなたがたの間で燃えさかる試練を、何か思いがけないことが起こったかのように、不審に思っ**て**はいけません。

・私たちが経験する苦しみ、困難は、単なる苦しみではなく、「試練」とであると言いました。つまり、苦しみや、困難によって、私たちは試みられ、成長していくのです。信仰が純化されていきます。信仰面で、人格面で整えられ、豊かにされていきます。これが苦しみの中にあって喜ぶことができる第1の理由です。

・聖書の中には、他にも試練によって成長していくという真理が書かれています。ヘブル人への手紙。

12:6 主はその愛する者を訓練し、受け入れるすべての子に、むちを加えられるのだから。」ヘブル

12:11 すべての訓練は、そのときは喜ばしいものではなく、かえって苦しく思われるものですが、後になると、これによって鍛えられた人々に、義という平安の実を結ばせます。ヘブル

・ここで「訓練」と訳されている言葉は、「懲らしめ」という訳（前の新改訳聖書）もあります。神は私たちにムチを加えて、「懲らしめる」訓練されるのです。同じ訓練でも愛するがゆえの訓練と、そうでない訓練があります。神は私たちを愛するがゆえに、私たちが試練を通して成長させてくださいます。

・試練にあっているときは、もちろん辛いものです。しかし、やがて義の実を結ぶことになります。平安な気持ちで神の前に立つことができる、のです。

1:7 試練で試されたあなたがたの信仰は、火で精錬されてもなお朽ちていく金よりも高価であり、

イエス・キリストが現れるとき、称賛と栄光と誉れをもたらします。

- ・ 苦しみは試練であり、そこを通り人は成長していきます。ですから、喜ぶことが可能です。苦しみの中にあって喜ぶ理由が、もう一つあります。

2) キリストの苦しみにあずかり、栄光に至る (第2理由)

4:13 むしろ、キリストの苦難にあずかればあずかるほど、いっそう喜びなさい。キリストの栄光が現れるときにも、歓喜にあふれて喜ぶためです。

- ・ 苦しみにあっても、喜びなさいという第2の理由は、苦しみが栄光に至るからです。もし私たちが苦しみを経験するなら、それはキリストとともに苦しみを経験することになります。しかも苦しみが苦しみで終わりません。やがて救いが完全に完成するとき、「歓喜にあふれて喜ぶ」ことになります。
- ・ 同じような教えがローマ人への手紙にあります。

8:17 子どもであるなら、相続人でもあります。私たちはキリストと、栄光をともに受けるために苦難をともにしているのですから、神の相続人であり、キリストとともに共同相続人なのです。

8:18 今の時の苦難は、やがて私たちに啓示される栄光に比べれば、取るに足りないとは考えます。

- ・ 現在の苦難は苦難で終わらない。やがてそれは栄光となる、その栄光に比べれば、現在の苦しみは取るに足りない、ということです。ペテロはさらに話を進めました。

3) 神の御霊が苦しむ者たちの上にとどまる (第3理由)

4:14 もしキリストの名のためにののしられるなら、あなたがたは幸いです。栄光の御霊、すなわち神の御霊が、あなたがたの上にとどまってくださるからです。

- ・ 苦しみに会うとき、喜びなさいという第3の理由は、神の御霊が聖徒の上にとどまってくださることです。これはキリスト者が生きる上で、非常に大切なポイントです。苦難という苦しみの者の上に、神ご自身が御霊としてとどまってくださいます。これ以上の力、励まし、勇気はありません。
- ・ 神の福音が宣べ伝えられときにも、御霊の臨在は大切な要因です。なぜなら、御霊の助けがなければ、私たちは何もできないからです。

『例 話』

- ・ 先日、米国 Trinity Bible Institute の Mark Nickens 教授 (教会史) の 2021 年 4 月号 NL を読み、興味心を持ちました。それは、世界各地にキリスト教宣教師を送っている国のトップ 10 か国と、宣教師を受け入れている国トップ 10 か国のリストです。

① 宣教師派遣国・トップ 10

1. 米国	127,000
2. ブラジル	34,000
3. フランス	21,000
4. スペイン	21,000
5. イタリア	20,000
6. 韓国	20,000
7. 英国	15,000

8. ドイツ	14,000
9. インド	10,000
10. カナダ	8,500

② 宣教師受け入れ国・トップ10

1. 米国	32,400
2. ブラジル	20,000
3. ロシア	20,000
4. コンゴ	15,000
5. 南アフリカ	12,000
6. フランス	10,000
7. 英国	10,000
8. アルゼンチン	10,000
9. チリ	8,500
10. インド	8,000

- ・興味深い点は、①の10か国中で5か国がヨーロッパとカナダであることです。①、②とも米国が第一位、ブラジルが第2位であることです。
- ・宣教師を派遣し、宣教師を受け入れている共通項は「その必要性」です。いずれも移民の国で他民族国家であることです。それだけに宣教という霊的必要性が大きいことです。
- ・福音を伝えるのは、同一文化、同一言語社会で宣べ伝えることが理想と言われます。しかし宣教師は異文化社会へ入り、そこで多くの困難に出会い、キリストの福音を宣べ伝えています。その困難さは、経験しなければ分かりません。

そこには、みことばが語るように神の御霊の助けがあります。いいえ、御霊の助けがなければ、キリストの福音宣教はできないことです。

4:14 もしキリストの名のためにののしられるなら、あなたがたは幸いです。栄光の御霊、すなわち神の御霊が、あなたがたの上にとどまってくださるからです。

- ・神の御霊の助けによって、確かにキリストの福音は宣べ伝えられてきました。そうです。今後もそうです。苦しみにあっても、前方に向かう「力」は神の御霊にあります。その神の御霊が聖徒の上にとどまってくださるからです。
- ・いかがでしょうか。私たちは苦しみの中で、①育まれ（成長）、②神の栄光が現れ、そして③御霊がとどまってくださいます。そこで大切なことは、キリスト者はどのように生きるかです。

2. キリスト者の生きる姿勢

1) 神にゆだねなさい

① 自分の非によって苦しめない

4:15 あなたがたのうちのだれも、人殺し、盗人、危害を加える者、他人のことに干渉する者として、苦しみにあうことがないようにしなさい。

4:16 しかし、キリスト者として苦しみを受けるのなら、恥じることはありません。かえって、

このことのゆえに神をあがめなさい。

- 私たちはさすがに、「人殺し、盗人、危害を加える者」はないでしょう。
しかし、「他人のことに干渉する者として」はいがでしょうか。これは他人との関係のことです。ペテロは、他人との関係で、キリスト者として、苦しみに会うことがないようにしなさい。と勧めました。そういう歩みをしなさい、ということです。
- たとえば、ちょっとした小さなことで他人との関係が崩れてしまうことがあるからです。「あいさつをしない」、「片付けしないで帰ってしまう」、「自分の失敗を他人のせいにする」、「礼儀を知らない」ということで、不必要な苦しみに会うことがないように、と勧めたのです。
- それらは皆、人との関係（横の関係）です。横との関係は大切ですが、さらに大切なことは縦との関係（神と私の関係）です。
- では、どのように歩むべきでしょうか。

② 神にゆだねなさい

4:17 さばきが神の家から始まる時が来ているからです。それが、まず私たちから始まるとすれば、神の福音に従わない者たちの結末はどうなるのでしょうか。

- ペテロはここで、この世で迫害、困難、苦しみにあっていることを「さばき」と表現しました。その「さばき」は、神の家（教会）で始まっていると言います。
- 神に愛されているキリスト者でも、私たちを成長させようとする神の愛のゆえに、苦しみにあいます。そうであるならば、「神の福音に従わない者たちの結末はどうなるのでしょうか。」つまり、神に従わない者たちは、もっと大きな苦しみにあうことになるではないか、というのです。
- そこでペテロは、箴言 1 1 章 3 1 節のみことばを引用しました。

4:18 「正しい者がかろうじて救われるのなら、不敬虔な者や罪人はどうなるのか。」

この聖句は、キリストの最後の審判の座でかろうじて、やっとのことで救われるという意味ではありません。いいえ、そうではなくて、地上でキリスト者の人生に様々な困難や迫害があることを、「かろうじて救われる」と表現したのです。

- であるならば、不敬虔な者や罪が赦されてない者たちの結末はどうなるだろうか、というのです。ですから、困難があっても神の御手の内にあるキリスト者の幸いを述べています。

4:19 ですから、神のみこころにより苦しみにあっている人たちは、善を行いつつ、真実な創造者に自分のたましいをゆだねなさい。

4 章の終わりの聖句として、ペテロは大切な言葉を贈りました。

- 「ゆだねなさい」 ゆだねるとは、任せるという意味です。この言葉は、長い旅に出るときに自分の財産を友人に任せる、そんなときに使う言葉です。そのようなとき、任せる相手によって、安心の度合いが違ってきますね。
- 私たちが自分のたましいを、命を任せるお方は、真実なお方、創造神であるお方です。神は全能のお方で、しかも信頼できるお方です。ですから、本当に安心することができます。もう一点、大切なことがあります。

2) 善を行いつつなさい

- パウロもローマ人への手紙 1 2 章で、こう言いました。

12:21 悪に負けてはいけません。むしろ、善をもって悪に打ち勝ちなさい。

- ・皆さん。私たちは日々の生活で、試練に耐えることは決して容易なことではありません。疑問、失望、様々な思いが生まれてきて、喜ぶことなど到底できないと思います。しかし、それに勝る喜びを持つならば幸いです。
- ・では、どうすれば苦難にあっても、このような喜びを持つことができるのでしょうか。 → 神との交わりを通して、神を知り、神から「力」を得るのです。神の前で心を静め、力、励まし、勇気をいただくディボーションです。
- ・しかし先ず大切なことは、自分の非によって、苦しめないことです。改めるべきことはないかチェックしてみようではありませんか。
- ・このようにして、キリスト者とは苦難にも喜びを得る聖徒のことです。本物の信仰です。ですから、恐れる必要はありません。私たちは真実である神にお任せし、善を行いつづけようではありませんか。

ま と め

主 題：「善を行いつつ、ゆだねなさい」

—喜びの人生—

- ・今日も、神は私たちにお語りくださいました。
 - ① 主は試練を用いて、私たちを純化し成長させてくださる
 - ② 苦しみにあずかることは、神の栄光にあずかることになる
 - ③ 神の御霊（もう 1 人の助け主）が働いてくださる
- ・そこで私たちは感謝し喜ぶことができます。ペテロはそのような歩みをすべき、次のように述べました。

4:19 ですから、神のみこころにより苦しみにあっている人たちは、善を行いつつ、真実な創造者に自分のたましいをゆだねなさい。
- ・キリスト者として生きるために大切なことは：
 1. 「神にゆだねる」こと
 2. 「善を行いつづける」こと

* God bless you!